

東交大同窓会会報

第 31 号

平成十九年三月八日
東京交通短期大学同窓会
発行責任者 川島一郎
編集責任者 西形伸次



東交祭・懇親会 平成18年9月16日

夕張の思い出

同窓会長 川島 一郎



連日ニュースになっている夕張市の財政破綻を聞く度に寂しい 생각이します。

昭和四〇年代後半

は、国鉄の各線区からSLが順次廃止されていきました。残り少ないSL運転線区では、力強いSLの雄姿を求め、鉄道写真マニアが集まりました。北海道の夕張から室蘭までは急勾配を重連のSLが引く固定編成の石炭列車が走っており、当然多くのSLマニアがカメラを構える人気の撮影スポットでした。

東京駅を一〇時半発の特急はつかり号に乗り、青函連絡線、函館から夜行急行列車と乗り継ぎ、苫小牧駅五時頃の始発DCで夕張駅に朝六時頃に到着します。小さな駅舎の待合室はダルマストー

ブが焚かれ、屋根からは直径一〇センチにもなるツララが何本も地面まで下がり、ツララ越しに見える駅広場は雪に埋もれ、夜明け前で寒々としています。夕張駅から折り返しのDCで少し戻り、紅葉山駅(現新夕張駅)や清水沢駅から歩き、零下二十三度の凍てつく沿線で、夜明け直後に登ってくるSL重連の石炭列車を待ったものです。

石炭産業は斜陽化し、周辺鉱山が閉山する中で、まだ元気があった夕張・紅葉山地区でしたが、昭和四十八年に三菱大夕張鉱業所が閉山し、同五十六年には北炭夕張新炭鉱のガス突出事故による倒産などが続き、石炭産業や夕張の衰退に拍車がかかりました。

昭和五十二年頃、国鉄職員採用のため夕張工業高校を訪問しましたが、地域の石炭産業は更に衰退しており、炭鉱街の工業高校でありながら地元の三菱石炭鉱業へは一人しか就職できないと先生から聞いて驚き、追分や苫小牧、岩見沢など周辺高校はどこも炭鉱離れしていました。平成二年に最後の三菱石炭工業南大夕張炭鉱が閉山し、炭鉱で栄えた夕張市はいっそう厳しくなり、夕張メロソ・観光拠点化等もままならず財政再建団体に指定される窮地に追い込まれま

した。

山々の木々、志幌加別川、夕張川、夕張湖など自然が一杯の夕張全体が大
事な観光資源でもある夕張市が立ち直
るよう応援したい。また、石勝線の開通
で夕張支線の終着駅となり、位置も変わ
り新しく可愛い駅舎になった夕張駅も
何時か訪ねて見たいと思う。

(株)ジェイアール東日本都市開発 (勤務)



今は無き「紅葉山駅」

新しい夕張駅



関根恒郎先生を偲んで

学長 渡邊 一治



多年に渡り、東京交
通短期大学の発展に
力を尽くされた、関根
恒郎元副学長先生は、
大変残念なことに、平
成十八年四月に逝去されました。先生は、
大正七年十二月のお生まれですので、お
ん年八十七才であつたとお伺いしてお
ります。

関根先生は、太平洋戦争が開始された
年の翌年である昭和十六年に東京大学
法学部を卒業された後、中国大陸に渡り、
上海で華中鉄道という会社に勤務され
ました。終戦にともなつて帰国されたの
ち、昭和二十四年から運輸省に入省され、
その後一貫して運輸関係、交通関係の
お仕事に携わつて来られました。その後、
昭和四十八年六月に、本学に講師として
奉職して頂き、平成三年には運輸科の学
科長、平成四年四月からは副学長として、
交通関係のお仕事に長く関わつてこら
れた経験を生かされ、本学の発展のため
に尽力なさいました。平成十二年三月に

本学を退職されましたが、先生の本学在
職中の多大な功績に対し、同年四月に、
名誉教授の称号が贈られました。退職後
は、昨年度まで特別教養講座の講師とし
て、年に一度ではありますが、本学の教
壇に立たれました。

関根先生の平素の人となりは、色白な
中肉中背のスマートで温厚な紳士であ
り、優しい人柄が滲みでるような物静か
な先生でありました。学生からの相談や
質問にも静かに丁寧にかつ真剣に答え
て頂けるので、質問した学生が恐縮して
しまうほどでした。しかし、学問上の議
論に関しては、一步も引くことなく理路
整然とご自分の考えを主張され、容易に
は譲歩なさらない一面もお持ちでした。
そのような先生の姿勢に、我々は学者の
気概と真剣さを感じたものでした。

このような関根先生の姿勢からは、後
輩の我々は学ぶべきことが多く、特に学
問に真摯に同かい合う先生の精神は、交
通短大の伝統として、現在でも連綿とし
て受け継がれています。先生がご逝去さ
れた今、残念なことに、直接、先生から
学ぶ術は失われてしまいました。幸い
なことに、短大の図書館には、先生のご
著書である『交通史試論集』が収められ
ております。同書は、私学振興財団から

「特色ある教育研究」として認められた、長年に渡る先生の研究の集大成の一冊であります。本紀要に掲載された先生の遺稿と共に、同書を、是非、一人でも多くの方に一読していただき、先生のお考えに接すると共に、在りし日の先生を思い起こしていただきたいと思います。

私の拙い文章では、関根先生のお人柄の一端も表すことはできませんが、泉下の先生には、温かな微笑みをもって寛大にお許しを頂けるものと信じて、先生への追悼の言葉とさせて頂きます。

短大の近況について

副学長 松岡 弘樹



同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと大慶に存じます。

最初に、本学の名誉教授である廣岡治哉先生が、昨年の秋の叙勲受章者として、教育研究功勞により、瑞宝中綬章を受章されましたことをご報告させていただきます。先生は交通の

分野で多大な功績を残され、非常にご高名な方でいらつしやいますので、お名前をご存知の方も多いかと思えます。先生は、長年にわたり法政大学で教鞭をとられた後、平成十二年に本学に学長として奉職され、数々の改革を行い、現在の交通短大の基盤を作られました。又、日本交通学会の会長、日本学術会議の会員をはじめとした数々の要職を務めてこられました。本学としても、先生の受章を心より、お祝いするものであります。

さて、本年度も、短大の近況について簡単に報告させていただきます。

一、新・退任教員について

昨年度をもって、鉄道施設論・鉄道運輸論ご担当の高橋芳美先生が定年によりご退任されました。先生は安藤信三先生の後任として、昭和鉄道高校勤務の後、平成十六年度と平成十七年度の二年間にわたり、同科目を担当されました。先生の短大へのご尽力に感謝を申し上げます。と共に関後のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

又、後任として、今年度から、川津賢先生が勤務されることになりました。先生は、東京急行電鉄株式会社に、昭和四〇年に入社以来、四〇年以上に渡り勤務され、会社の発展に尽くされてきました。

短大においても、長年にわたる経験を生かされて、活躍されることを期待したいと思います。

二、学校行事について

本年度の学校行事に関しては、前期には、四月に入学式・オリエンテーション、五月に学外レクリエーション（ハタスポートプラザにてボウリング大会）、七月に第一回オープンキャンパス・交通見学会（鉄道文化村見学）、七月に第二回オープンキャンパスの各行事を行いました。

後期には、九月に東交祭、十二月にゼミナール大会を実施し、三月に卒業式を予定しております。

三、時間割について

二〇〇七（平成十九）年度の時間割（案）・特別教養講座（案）の日程が別表のように決まりました。次年度のカリキュラムに関しましては、基礎ゼミの充実、就職対策講座の講義科目としての設置などを主な改正点としております。

又、例年、ご案内いたしておりますが、公開講座である特別教養講座への同窓会会員の皆様のご参加をお待ちいたしております。最後に、昨年は、訃報が続きました。

別稿で、学長先生が追悼の言葉を述べ

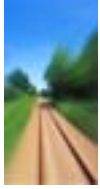
られていますが、本学の元副学長であり、名誉教授である関根恒郎先生が、昨年四月四日にご逝去されました。

先生は、昭和四十八年に本学に赴任され、平成十二年にご退任されるまで、交通史、自動車交通論、現代政治論などの科目を担当されると共に、学科長・副学長を務められ、長きにわたり本学の教育に多大な貢献をされました。

又、事務局に勤務されていた福王宣子さんが昨年十一月三〇日にご逝去されました。福王さんは、昭和三〇年から平成五年の長きに渡り本学に勤務され、短大事務局の礎を築かれました。いつも笑顔をやささず学生に應對していた姿が偲ばれます。

お二人の長年にわたる本学に対するご功績に感謝を申し上げると共に、心より、ご冥福をお祈りする次第です。

※本稿、脱稿後に、元同窓会副会長の北原忠良さんが昨年末にご逝去されたとの知らせがありました。北原さんは、同窓会の創設時から、同窓会の活動に尽力されてきたとお伺いしております。短大を代表して、心よりご冥福をお祈りいたします。



就職（進路）室たより

就職（進路）室長 佐藤 勝治
桑原 賢二



同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

会報原稿を執筆するたびに、もう一年たつたのかと感慨に耽る一方で、間近に迫ってきた現一年次（来春卒業者）の採用試験のラストスパートの時期でも

あり、受験生一人一人が自覚して、昨年月からの勉学の成果を如何なく発揮してほしいものだと、願わずにはいられません。本年度も、昨年同様、就職・進路の総括的な助言・指導を、桑原（基礎ゼミ担当）が、また適性処理能力講習に関しては、引き続き佐藤が担当して参りました。

さて、昨今の採用動向は、団塊世代の皆様定の定年退職の本格的補充時期を迎え、新規卒業者や経験者採用等、動きも益々活発化してきております。

また、一方で、正社員採用以外での、契

約・派遣社員等での採用も恒常化しており、雇用形態の多様化が一層顕著になってきていることが各署発表の数字からも、うかがえるようになってまいりました。そのような情勢の中で、今年も約八〇余名の卒業生が本学を巣立ち、実社会に羽ばたこうとしております。

毎年のお願いでございますが、入社後は、どうか、社会人、企業人としての自覚や心構えなどについて、心強いご指導ご鞭撻をいただけましたら幸甚でございます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、前述のような状況下、学生が採用試験で十二分に力を発揮し、奮闘した結果、就職・進学希望者七十五名（昨年八十四名、九名減）中、交通関連（鉄道業・バス事業者等）企業への内定が四十一名（昨年同時期五十二名）、一般企業へ二十一名（昨年同時期十五名）の内定者を送り出すことができました。（二月二日現在）

鉄道業では、今年新たに、JR四国、埼玉高速鉄道、伊豆急行等にも内定者が決まっております。

【交通関連企業別内定者数】

- ☆ JR 東日本八名（昨年五名、高崎二名、横浜二名・八王子一名・千葉二名）
- ☆ JR 西日本三名（昨年三名、

- ☆ JR 四国一名 (昨年内定無)
 - ☆ JR 貨物関東支社七名 (昨年六名)
関西支社一名 (昨年内定無)
 - ☆ 東京地下鉄 (東京メトロ) 六名
(昨年内定無)
 - ☆ 東京急行電鉄一名 (昨年一名)
 - ☆ 小田急電鉄一名 (昨年一名)
 - ☆ 埼玉高速鉄道一名 (昨年内定無)
 - ☆ 天竜浜名湖鉄道一名 (昨年一名)
 - ☆ 伊豆急行一名 (昨年内定無)
 - ☆ 東京都交通局 (協力会) 四名
(昨年十四名)
 - ☆ 京急ステーションサービス一名
(昨年二名)
 - ☆ 阪急レールウェイサービス一名
(昨年二名)
 - ☆ JR 東日本グリーンスタッフ三名
(昨年内定無)
 - ☆ しずてつジャストライン一名
(昨年内定無)
- また、交通関連業以外の企業への就職者も、サービス・飲食・警備業等、多岐にわたる分野において内定をいただくことができました。
- さらに、七名(昨年同時期十一名)が四年制大学への編入学を決めております。時代の要請とともに、就職活動・試験も

年々早まっており、現一年次の採用試験自体も、大学三年生と同時期(後期試験期)には始まっている昨今です。その事実を踏まえて、より一層、エントリー時期に対応した指導体制にしたいと考えております。

正課授業である基礎ゼミや就職対策講座においてはもちろん、さまざまな場面において就職意識の高揚、試験対策をしつかりと図ってゆき、一般教養・マナーの基礎固めをしてゆきたいと思っております。

今後とも、さらなる就職内定獲得にむけての、皆様からのご助言、ご協力、ご指導を、心よりお願い申し上げます。

入試状況報告

学科長 沼田 憲治



本年も入試状況のご報告をさせていただきます。最初に過去五年間の入試状況を示すデータ(下表)をご覧ください。

まずは、昨年平成十八年度入試の最終結果についてご報告いたします。昨年の

会報でお伝えできなかった部分に関しては、二月入試が志願者四名、合格者四名、三月入試が志願者九名、合格者九名(追加募集一名を含む)という結果でした。これにより計六回の入試トータルで、志願者数は九〇名、合格者数八十八名、入学者八十三名(辞退者五名)ということになりました。前年度割り込んだ三桁の回復を目指していたわけですが、それどころか定員ぎりぎりの八十三名というかなり

	AO入試		推薦入試		一般入試		合計			倍率
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	入学者	
H15			56	56	60	59	116	115	109	1.00
H16			78	74	73	46	151	120	116	1.25
H17			60	59	48	47	108	106	98	1.01
H18	32	32	30	30	28	26	90	88	83	1.01
H19	54	54	21	21	11	11	86	86	86	1.00

注：平成 19 年度は一般入試 2 期 (2 月時点) までの数字

深刻な事態となりました。新たに導入したA〇入試は三十二名の合格者を出し、推薦入試の三〇名と合わせると前年度の推薦合格者の数をわずかながら上回り、一定の成果を収めたと評価していいと思います。しかし、昨年もお伝えした通り、顕著になつたのは一般入試志願者の極端なまでの減少です。計四回実施してわずか二十八名！ワーストを記録した前年度からなんと二〇名減、わずか三年で半分以下に減つたことになりまふ。もはや一般入試では学生は集まらなふといふのは、紛れもない事実だと言わなければなりません。

次に、平成十九年度入試の中間報告に移ります。A〇入試に関しては、七月を皮切りに一月まで計五回実施した結果、昨年度を二十二名上回る五十四名を獲得することができました。A〇入試も二年目に入り、確実に受験生に定着したようです。一〇月の四期から一月の五期まで三ヶ月も空くにもかかわらず、その間にある推薦や一般を見送り、わざわざ一月のA〇まで待つ受験生も見受けられたほどです。理由を尋ねると、小論文がある推薦や一般よりも、面接のみのA〇のほうがいい(楽?)という答えが返ってきました。A〇を受けるためには、説明会に参加して体験入学をし、さ

らに事前面談を受けなければならぬわけですが、その手間を差し引いても、小論文を書かなくてすむほうが負担が軽いというわけでしょうか(そうだとすれば、少々情けない話ですが)。当初予定していたA〇入試は現時点で終了しておりますが、まだ間に合うならばA〇で受けたいという声が寄せられており、急遽A〇の追加募集に踏み切りました。この流れに沿って、来年度はA〇入試の回数をさらに増やし、六月から二月まで計八回実施する計画です。

また、推薦入試もA〇入試が複数回実施となつて多少食われた感はありますが、なんとか二十一名を確保し、A〇との一応の棲み分けができてきたと分析しております。更なる強化策として来年度は、今年度まで同時に実施していた指定校制と公募制を別な日に分けて実施し、さらに新たに普通科以外の高校生のための推薦入試を別枠で設けることに致しました。工業や商業高校の生徒は、学力では普通科の生徒に劣る傾向があるものの、真面目な子が多く、過去の実績からしても、専門科限定の推薦入試にはある程度の数が見込めるものと期待しております。要するに、十一月は推薦入試月間として三回実施することになります。

さて、問題の一般入試です。三回のうち二回終了した現時点で、十二月の一期が志願者七名、合格者七名、二月の二期が志願者四名、合格者四名という結果で、ここまですべてトータル十一名の入学予定者しか出ておりません。一月入試に関しては、A〇入試として実施したことが功を奏し、志願者で五名増、合格者は六名増と好結果を生みましたが、十二月・二月入試の志願者は史上最低だった昨年度からさらに二名減という結果でした。今年度から社会人入試を導入し、一般入試と同時に実施したわけですが、その効果はまったくと言っていいほど現れておりません。社会人に関しても、高校生同様、A〇に流れている部分があるとは言え、もう少しなんとか、実績を残したいところです。

以上のように、平成十九年度入試は、八回終了した現時点での合計で八十六名の合格者を出しており、幸いなことに辞退者が出ていませんので、この八十六名がそのまま入学予定者ということになります。昨年度の最終結果をすでに三名超えているとは言え、三桁の大台回復まで残り十四名という数字は決して樂觀できるものではありません。かつては「浪人だけは避けた」といふ思いで本学を受けてくる四大との併願者がある程度計算できた三月の一

般入試も、本格的な全入時代を迎えた今年
は、「欲を言わなければ誰でも四大に入れ
る」と言われており、苦戦は免れない見通
しです。そこで、AOの追加募集に期待を
掛けたところですが、これもこの時期で
は一人ひとりを拾い上げていく感覚に近
く、そう多くは望めません。いずれにせよ、
目標達成には少しも気を抜けない状況で
す。

今年度は六月と七月に二回オープンキ
ャンパスを開催し、昨年度を上回る参加者
がありました。加えて、月に二回程度だっ
た説明会を毎週実施し、受験希望者と接す
る機会を少しでも多くするように心がけ
ました。それが、志願者の回復、特にAO
受験者の増加、そして辞退者の減少につな
がったものと考えております。前に述べた
通り、来年度はさらにAO入試の回数が増
えますので、オープンキャンパス・説明会
とAO入試の一層の連携を考えて、日程を
組んでいるところです。また、今年度は夏
と冬の二回にわたって、教職員による高校
訪問を実施しましたが、来年度は訪問の時
期を早め、より効果的な時期に本学をアピ
ールし、高校との連携を深めていく予定で
す。高校を訪問してみても改めて思い知らさ
れたのは、本学の知名度の低さです。ほん
の数年前に卒業生が本学に入学している

実績校であるにもかかわらず、その事実さ
え知らない進路担当の先生もおり、中には
そんな学校があったのですかと驚かれる
ケースもあつたほどでした。限られた広報
予算内での宣伝しかできないので、致し方
ない面もあるのですが、やはり相当にショ
ッキングな事態です。しかし、高校訪問は
すぐに効果が現れるというものではあり
ません。地道に足を運び、顔を見て直接話
をするので、高校の先生との繋がりをつ
けておくことは、必ずや将来に結びついて
いくはずで、毎年、先生に勧められたと
いう受験生が少なからずいることから見
ても、単純な広告を打つよりもある意味効
果的な方法だと言えるでしょう。

先生ばかりではありません。親から、先
輩から、知り合いから受験を勧められたと
いう声は非常によく耳にします。入学生の
確保は今後ますます厳しくなっていくで
しょうが、そんな中、わが交通短大のよう
な小規模校にとつては、こうした人と人と
の繋がりは大きな武器になるものと確信
しております。三、〇〇〇人を超える卒業
生の存在自体がすでに、本学の歴史と伝統
の証明であり、大きな財産と言えます。こ
の伝統が今後長く引き継がれるためにも、
皆様一人ひとりのご協力を切に願います。
次第です。

お知らせ

一 会報バックナンバー
インターネットより、
http://www.d1.dion.ne.jp/~nisikata/tjct/tjct_main.html
にアクセスしていただき、会報ボタンをク
リックすると、第二十二号から今号まで閲覧
できます。

二 東交祭

平成十九年九月十五日(土)～十六日(日)
に開催予定です。十五日(土)に同窓会懇談
会も予定しています。詳細は右記ホームペー
ジに掲載します。

三 原稿執筆案内

- ① 題 材 自由
- ② 執筆要領
- ・ 文章の場合
- 市販の原稿用紙か電子データの入ったFDを
郵送、または電子メールにて、八〇〇字程度
でお願いします。
- ・ 写真/イラスト/カットの場合
- そのまま版下とします。電子データでも結構です。**
いずれもタイトル、卒回、氏名、勤務先を
明記し、写真も添付してください。
- ③ 原稿締切 毎年一月末日
- ④ 送付先 〒一七〇〇〇一一

東京都豊島区池袋本町二一九一
東京交通短期大学 同窓会事務局宛
E-mail: toukouOB@gmail.com

平成 19 年度 特別教養講座カリキュラム

前期 (土) 13:30 ~ 14:50

(敬称略) *は本学卒業生

開講日	講演者		テーマ
4月14日	注金ピカ先生	拓殖大学客員教授	成功の鍵は本当のプライド
4月21日	森田 喬	法政大学工学部教授	地図に見る交通
4月28日	齋藤 順治	東日本旅客鉄道(株)上野駅駅長	JR 東日本グループの現状
5月12日	青木 栄一	東京学芸大学名誉教授	池袋・新宿・渋谷 - 鉄道のつくれた副都心
5月19日	*阿部 敏彦	本学名誉教授	ことばを考える - その流れにあるものは
5月26日	*遠藤 裕生	(株)アトム・エンジニアリング	痕跡を撮ろう! デジカメで撮る廃線跡
6月 2日	平田 一彦	東武鉄道(株) 経営統括本部経営監理部長	都市鉄道をめぐる経営環境
6月 9日	大山 茂夫	大学朝日人の会常任幹事	「情報力」を磨く
6月16日	櫻井 寛	フォト・ジャーナリスト	「祝」日本の新幹線 いよいよ海外に進出
6月23日	山口 るみ子	國學院大學文学部兼任講師	中華人民共和国の鉄道
6月30日	小山 徹	埼玉大学客員教授	世界遺産の原爆ドームと広島のと爆電車
7月 7日	鈴木 順一	本学名誉教授	大きいサービスと小さいサービス
7月14日	秋本 琢也	武道家	日本のこころ

後期 (土) 13:30 ~ 14:50

開講日	講演者		テーマ
9月22日	中本 国勝	東日本旅客鉄道(株)池袋駅駅長	JR 東日本の現状と将来
9月29日	須田 文男	東日本旅客鉄道(株) 東京定期券センター所長	現場から見た国鉄改革, JR発足20年
10月 6日	小野寺 理文	職業能力開発大学校講師	光通信システムの現状とその仕組み
10月13日	*瀬賀 政一	東日本旅客鉄道(株)取手駅駅長	基本動作の大切さについて
10月20日	*半沢 貞夫	交通新聞サービス(株)制作部長	本作りの実際 - 『駅そばばなし』を例として
10月27日	荻原 俊夫	(株)パスモ代表取締役専務事業部長	首都圏の交通ICカード相互利用について
11月10日	*川島 一郎	(株)ジェイアール東日本都市開発 常務取締役販売事業本部長	元気な JR 東日本グループ
11月17日	予備日		
11月24日	廣岡 治哉	本学名誉教授	世界と日本の交通
12月 1日	前田 悦子	駿河台大学経済学部専任講師	少子高齢化時代の公的年金を考える
12月 8日	小林 末男	産業能率大学監事	コミュニケーションの管理
12月15日	神立 哲男	日本貨物鉄道(株) 執行役員総務部長	鉄道貨物輸送の日本における現状について
1月12日	佐藤 美知男	交通博物館専任学芸員	交通文化財と博物館
1月19日	湯田 聡	関東バス(株)社長室長	路線バス - その魅力を探る

※ 特別教養講座は公開講座(無料)です。日程は変更する場合がありますので、聴講を希望される方は事前に短大事務局(03-3971-4704)へお問い合わせの上、ぜひお越しください。

なお、6月16日と9月22日はオープンキャンパスを兼ねており、入学希望者優先となります。

注 ご本人のご希望により、本名ではなく芸名で表記しています。

平成 19 年度 時間割表 (案)

1 年次

2 年次

第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限		第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	
13:30 ~ 14:50	15:00 ~ 16:20	16:30 ~ 17:50	18:00 ~ 19:20		13:30 ~ 14:50	15:00 ~ 16:20	16:30 ~ 17:50	18:00 ~ 19:20	
歴史学 A/B (安彦)	観光関係法規 (森住)		自然科学 概論 A/B (佐藤信)	月	観光事業論 ・前期 サービス産業 論・後期 (小池鉄)	経営管理論 ・前期 (安彦)	海運論 A/B (山岸)	民事法 ゼミ (渡邊)	
		観光プラン ニング実践 I (佐藤勝)	保健体育 理論 A/B (藤城)				観光研究 ゼミ (小池鉄)	簿記論 A/B (佐藤良)	欧米文化論 ゼミ (沼田)
旅行業務論 I (石川)		文学 A/B (沼田)	環境科学 概論 A/B (中村)	火	鉄道経済論 ・前期 航空論 ・後期 (秋葉)	交通経済学 A/B (上遠野)	自動車 交通論 A/B (上遠野)		
鉄道数学 I A/B (蔵野)		統計学 A/B (岡本)	基礎ゼミ II (沼田)			鉄道工学 ・後期 (君島)	交通論 ゼミ (秋葉)		
哲学 A/B (篠原)	交通概論 A/B (秋山)	鉄道施設論 A/B (川津)	英語 I (小池知)	水	鉄道運転論 A/B (川津)	フランス語 A/B (沼田)	都市・地域 交通論ゼミ (秋山)		
キャリアア ップ実践 A (佐藤勝)		経営学 A/B (亀川)					交通経営論 ゼミ (亀川)		
鉄道数学 II A/B (蔵野)	キャリア形 成論 A/B (桑原)	基礎ゼミ I (松岡)	法学 A/B (松岡)	木		情報システ ム論 A/B (井関)	コンピユー タ 実習 (井関)		
		基礎ゼミ III (桑原)							
		基礎ゼミ IV (佐藤勝)	ホスピタリ テイ論 A/B (石隈)						
旅行業務論 II (森住)		観光学概論 A/B (井上博)	心理学 A/B (兼高)	金	中国語 A/B (謝黄)	交通関係 法規・前期 経営法学 ・後期 (松岡)	物的流通論 A/B (古井)	コンピユー タ 実習 (花山)	
	キャリアア ップ実践 B (佐藤勝)		体育実技 A/B (山市)				旅行論ゼミ (井上博)		
特別教養 講座	経済学 A/B (長谷川)	英語 II (小池知)	英語 III (小池知)	土	情報関係 法規・前期 (成瀬)	交通技術論 A/B (樋口他)	社会政策研 究ゼミ (長谷川)		
			観光地理 A/B (井上浩)						

会員解放区

七〇才古希を迎えてのクラス会

副会長（第五回生） 篠崎 正人



今日は幹事さんが
晴れ男だから、秋晴れ
の上天気。高校時代の
クラス会で朝 AM 九
時一〇分長野駅東口

集合で松代市内見学，最初は川中島の八幡原公園でボランティアの人の説明があつて，武田信玄と上杉謙信の銅像等見学。この場所は長野へ行く度び，自家用でも高速バスでも前を通過するだけだった。次に松代市に入って，佐久間象山神社参拝，そして近くには世界第二次大戦の時，大本営関係の地下施設があり，天皇陛下の疏開先きとされていたところでもある。更に神社で新たに勉強になったことは，佐久間象山という人は，こんな信州の田舎から江戸時代に上京し，木挽町に塾を開いており，生徒（塾生）

には，新しい日本を改革した坂本龍馬，吉田松蔭，高杉晋作等数多くの秀才を教えた先生だったことなど，色々ためになる一日だった。

宿は国民宿舎（松代荘）で松代城（真田幸村公）を形どった仲々ムードある建物だった。湯泉は茶色の湯，健康に良く，PM 六時から宴会となった。大広間で壇原君のマジックショー（プロ級で現在ボランティアとして各方面で活躍）等，皆楽しく語り合い，そして飲み，カラオケ大会になって歌いまくり大宴会となった。各自部屋へ戻ってから夜遅くまで思い出話に花を咲かせた。

五〇年前に同じく勉学に励んだ学友は古希を過ぎてても各々が渾名で呼びあい，ちゃん付ですぐにその頃に戻る楽しい有意義なひとときだった。これからも元気で又の再会を誓い合い，名残惜しみながら別れた。



大切にしたいスローフード

会計監査（第一〇回生）

堀 丈夫



記憶だけが甦る。

私は，東京都目黒区で生まれて育った。私の町の変化で思う（家・仕事・人・物…）物証は無いが，時間の

最近「TAMAYS 三丁目の夕日」が大変な人気であり続編も春にクランクインし十一月に公開されることになった。私には，思い出多い時代である。貧乏であったが何か感じる思いが胸をこみ上げてくる。現在は，当時と比べすべて変わっているが，特に食事は変わったと思う。経済の成長と共に野菜や魚から肉が中心の食卓に変わった。しかし現在は，食事の大切さが，スローフードとか食育と言われ見直されている。

私達の小学生の頃教えられた「せり，なすな，ごぎょう，はこべら，ほとけのざ，すずな，すずしろ，これぞ春の七草」とゴロ合わせで思い出す。

春の七草粥の習慣は，平安時代からの伝

統のようで正月料理に疲れた胃を休め、野菜の少ない冬場にビタミンやミネラルの栄養素を摂る先人の知恵であろう。すずな(かぶ)すずしろ(だいこん)は、いずれの葉にもビタミンCが含まれている。冬場には、野菜が不足しビタミンの知識がない昔は、ビタミンCの不足を招きやすかったことが推定できる。

幕末に蝦夷地の警護を課せられた津輕藩で酷寒の地で越冬できず、文化五年(一八〇八年)に藩兵二五〇人中一〇九人が死亡した。そのほとんどが、壊血病で命を落した記録がある。当時壊血病は、歯ぐきや関節、皮下などに出血し痛みと腫れを伴い死に至る病であった。

現代では、ビタミンCは、十分であり壊血病は、お目にかかることはないそうだが、ビタミンCが不足すると身体の基礎を作る「たんぱく質」(コラーゲン)の合成が障害され、老化が促進されることが明らかとなった。しかもビタミンCは、ストレスで大量に消費されることも明らかに十分な摂取が必要として見直された。

還暦を過ぎた私は、これからは、先人の知恵に従いゆつくりと、バランスの良い食事を味わおうと思っている。年頭に同窓会誌の原稿を書きながら皆様の健康と良い年である事を祈る。

現在の仕事について

副編集長(第四〇回生)

星 昭



交通人を目指して交通短大で学ばせていただき、交通人となるべく京浜急行電鉄に就職し、施設修繕員、

駅員、飲食業などを勤めてきましたが、京急側で沿線を様々な面で盛り立てていけば大多数の顧客は満足し、収益も上がり事業を継続できるものと考えておりました。

現在の仕事は東京都建設局が主体となつて行なっている、踏切すいすい事業の一環である京急蒲田駅付近連続立体交差事業の用地買収を、東京都から受託して行なっております。当然ながら用地買収の対象になるのは京急鉄道線に接している地権者となり、地権者としては土地を買収されて他所に移転したり、残った土地に再建したりして生活再建を行わねばならず、甚だ迷惑な話であると思います。

地権者に対しての用地取得折衝のほ

んの一例ですが、(あまり突っ込んだ内容を書けなくて申し訳ありません)(地権者)「騒音等にしても従前よりは改善されるとは言え、劇的に改善される訳でもないのでも今ままで良いではないか?」

(京 急)「立体化により鉄道による地域分断解消と踏切による道路渋滞が解消されるので地域の為にご協力を願いたい。」
と言う具合にお願いをして買収に応じてもらっています。

このように鉄道線に近接している地権者(住民)と顧客と直に話しをする機会があると、自らの財産を提供(公共事業による買収では土地単価は大雑把に言えば売り急ぎ買い急ぎのない価格とし、建物等は新築費を補償する訳ではない)したり騒音・振動など環境面で我慢していただいている住民に支えられているからこそ、公益事業者としてやっていけるのだとつくづく思うようになってきます。

現在の用地買収という仕事をやらなければこの様な営業面で数値化出来ない鉄道線近接住民の協力のもとに会社があり、共存関係にあることを身をもって学ぶ機会は無かったと思います。買収

が全部済んだからもう良いやとは思わず、顧客も公益事業者としての当社を支えている事を頭に入れておきたいと思っています。

(京浜急行電鉄株 勤務)

東交大事務局の華 福王宣子さんを悼む

第四回生 小泉 林三



昨年十二月初旬、「姉 宣子 去る十一月三〇日七十九歳にて永眠致しました。…」福王宣子さんの

弟さんから、このような喪中のはがきを頂きました。福王さんとは本学卒業後、毎年欠かさず年賀状を交換していたので、消息は或る程度把握していました。二、三年前の賀状に体調を崩した旨、記されていたので気にかかってはいましたが、よもやこのようなことになるとは思ってもみませんでした。

福王さんは私達四回生が入学した昭和三〇年の五、六月頃、前任者の後を引

継いで事務局へ来られました。当時は昭鉄高校の木造二階建校舎を間借りしており、暖房もなく冬の間は寒さに震えながらの授業でした。

福王さんは校舎玄関を入ってすぐの事務室の小窓から、いつも笑顔のをぞかせ私達を迎えてくれました。そんな優しい人柄から、いつしか学生の間ではアイドル的な存在となり、やがてそれが敬慕への思いに変わり、多くの苦学生の心の中を癒してくれたものでした。

卒業式当日は校庭で自然に学生の輪



の中へ入り、気さくにカメラに収まってくれました。校門を後にする際、祝福の言葉をかけて頂き、私達も二年間お世話になったことに謝意を示しながら、お別れしたのです。

人は現世に生を受けた以上、いつかは必ずこの世と決別しなければならぬ宿命を背負っています。とはいえ、寿命が驚異的に伸びている昨今、黄泉の世界へ旅立つには、少々早すぎたように思え

てなりません。

福王さん、どうぞ天国で安らかに眠り下さい。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

合 掌

(慶応義塾大学文学部・安藤研究室内「首都圏ふたごプロジェクト」勤務)

ボランティア体験記

第一〇回生 田嶋 政明



四十一年間の公務員生活も終わり、現在埼玉県深谷市榛沢で野菜づくりをやっています。

経営は春ブロッコリー一月中旬～五月末、トウモロコシ二月末～七月初旬、秋冬ブロッコリー七月下旬～翌年一月末頃と三本勝負で一年がすぎます。

組織の仕事と異なり、個人経営で天候に左右されつつ良くも悪くも自己責任の仕事、山の神の指導のもと出来る範囲でやっています。

さて、日頃行っているボランティアに

ついで紹介します。献血を三〇年以上個人で体調に応じ人の為になると信じ、無理なく肩の力を抜いて協力しています。献血は痛いし、時間が掛かりますが、健康診断と同じ身体のチェックが出来ますので続けて来ました。

又、ソフトボールの審判員を二〇年余やって来ました。良く負けたチームから弁当たべているのに誤審とか、下手と言われながら夏炎天下、又春冷えの中、風雨問わず、好きでやっています。

注意するのは、子ども会、市町村大会ほど難しい面があります。見る(ルック)―コール―見る(ルック)をワントーン置かないと、落球等あり、早いとアウトがセーフに訂正のコールになり、正確性に欠けるからです。

審判公平と言いますが、試合中、何か問題が発生しますと、試合の流れが止まり審判が目立ちます。審判は居るのか、居ないのか、わからないのがいいのです。プロ野球でも、乱闘の原因は審判の判定不服等があります。

試合する選手の人達は一年中、日々真剣に技術を磨き努力しています。審判員も選手に負けない審判技術を身につけ、球を見る目、間、立つ位置、試合の流れ、一歩先を想定する勘が大切となります。

以上ボランティアで体験したことは、年々歳々、人同じからず、年々歳々花合いにたりと言います。

ボランティアも色々、多種多様で、求める人々も変わりますが、人の心の優しさ、思いやりは不変です。

このことから経験し言えることは、ボランティア活動は義理や、狩り出しでなく、いにしえの日本の美德、手弁当の勤労奉仕の心、自分で出来ることを、倦(う)まず撓(たゆ)まず、不言実行することが自分の為になるし、人様に役立つと感じました。



半生を顧み、 そして明日も見つめて

第十四回生 伊藤 章一



私は終戦直後生まれ、世に言われる処の「団塊世代の走り」で、同世代の仲間は一五〇万人も居るのです。

中学時代には今ではとても考えられない事ですが、「午前と午後の二部授業」があり、兎に角、生徒が多かった。受験は勿論、社会へ出てもあらゆる場面で常に何等かの競争の真只中に立たされて生きて来ました。

我が家の傍に今も、二両連結の東武曳舟線が走っております。小さい頃は良く友達と見に行きました。今では時効の話になります。紙面に表わせられないような遊びをして怒られた事もありました。いつの日にか超カッコイイ！電車運転士に憧れて現在のJRの前身、国鉄に入社と同時に東交大で勉強も重ねた訳です。この二年間は私にとって、とても有効な経験の蓄えとなり、商売の道に入った今も教訓として生きております。国鉄入社

当時は、高度経済成長の波に乗り、国の根幹を支える重厚長大産業が発展し東海道新幹線の開業、東京オリンピック開催、東京タワー完成などで戦後経済をリードした感がありました。

さて今春も、東交大生が社会に羽ばたいて行く訳です。私共が社会人になった時代とは比べる事ができない位に経済や社会環境が目まぐるしいスピードで変化して来ています。それも全地球規模的範囲で、日本は少子高齢化傾向ですが、中国やインドは人口増です。これからは国内だけに視線を置いて生活をする訳には行きません。文字通りグローバルスタンダード社会の中で、若い人達は大変かもしれないが、その反面、世界中を視野に入れて活躍する場面や、チャンスがあると言う事です。しかし、チャンスは向うからはやって来てくれません。自らの手で掴むものです。其の時になって、決して慌てない様にスキルアップに励んでおく事が必要なのです。

私が十四年間務めた電車運転士の後は「酒食品卸売業」に転身した訳ですが、商売も飲食人口が減ってくれば料飲店が淘汰され、更に私共の様な流通業者、そしてメーカー迄、影響が出てきます。「交通業界各社」や「老舗や新興の街」

にしても顧客獲得戦略を持たない所は市場からの撤退を余儀なくされる時代です。「勝ち抜きそして生き残る」為には、個人も企業も「弛まざる努力と研究」。「そして飽くなき自己研鑽」が必要です。私は「人生比れ死ぬまで勉強」と言うテーマで、二度の転職に「恵まれた者の使命」として受け止め、「子々孫々に夢を持ち続ける事の大切さ」を伝えながら“今を生きています”。

鉄道人生二十五年を振り返って

第二十九回生 小林 功



月日が流れるのは早いもので、私が交通短大を卒業してから早二十五年が過ぎようとしています。卒業

後は、兼ねてからの希望であった当時の日本国有鉄道に運転Aコース（運転士養成コース）として入社し、見習いを経て電気機関助手として東海道本線の寝台特急「はやぶさ」や「あさかぜ」などの電気機関助手として東京～静岡間の乗

務を皮切りに、その後電車運転士となり、京浜東北・根岸線の大宮～大船間を十一年運転しました。

平成八年に新幹線運転士の登用試験にパスし、見習い後、新幹線電車の操縦免許を取得しましたが、要員需給の関係で三年間中央線の東京～大月間に乗務、平成十一年十一月、入社以来の目標であった新幹線運転士として、上野新幹線第二運転所に配属となり、現在まで東北新幹線（東京～盛岡間）、上越新幹線（東京～新潟間）、長野新幹線（東京～長野間）の運転士として乗務しています。私が赴任した頃の運転所は、私のように在来線の運転士を一〇年以上経験した後、新幹線の運転士になった人がほとんどで、年齢構成も高めで一番下が三〇代半ばでしたが、現在は団塊の世代の大量退職時期を迎え、その補充の為に三〇代前半の運転士も増え始め、若干年齢構成が若くなりつつあります。

私が新幹線運転士の見習いをしていた頃は、車種も二〇〇系、四〇〇系つばさ、E1系MAXしかありませんでしたが、現在では「はやて」「あさま」などに使われているE2系、「こまち」などに使われるE3系、E4系MAXと増え、最高速度も二七五kmとアップされ、三六

○^{*}の営業運転を目標とした Fastech360 の試験走行も行われていきます。

現在までの感慨深い思い出は、指導操縦者として見習い運転士の養成に関わられたことや、天皇皇后両陛下のお召し列車、皇太子殿下のご乗用列車の運転を担当できたことです。

世間の人は「新幹線は自動で動いている」などと、とんでもないことを思っている人が多いのにはビックリしますが、あの長い距離を十一五〜一〇秒ぐらいの誤差で運転している世界稀に見る正確さ、そして安全が売り物の新幹線は、運転士が時間計算をしながら運転していることをご存知の方は少ないでしょう。これからも交通短大の卒業生として、またJR東日本の社員として、安全・正確・快適な輸送に徹するのは勿論ですが、お客様に安心・快適にご利用して頂けるよう、これからも技術を磨いて行きたいと思えます。

(東日本旅客鉄道株式会社 東京支社
上野新幹線第二運転所 勤務)

今号の箴言です。

(①へ続く)

二〇一〇年を振り返って

第三十五回生 小室 伸宏



どうもこういう原稿を書くというのは苦手です。後回しになってしまった今日この頃です。

この原稿が発表されます頃には桜の花も開いて新しいスタートが切られているものと思います。そんな中、卒業生の皆様お元気ですごしていらっしゃいますでしょうか。

さて、昨年の冬より、父が脳出血のため入院いたしました。多忙な日々を過ごしておりました。

現在の会社にお世話になり早くも一〇年がたちまして、もうそんなに月日が過ぎてしまったのか。と夢のような感じさえます。ただこの一〇年、会社の中を見て来ても、大小多少の問題はありまして、その問題が未解決のまま前に進もうとしているのが気がかりでなりません。何にしてもそうですが問題を解決してこそ物事を先へ進められる訳ですから、皆さんも企業の中でも、私生活で

もそのことを頭において行動されると良いと思います。つまり後回しにしない、おざなりにしないということであると思えます。

さて、私生活では学生時代と何ら変わりなくエヌゲージをいじったり、本を読んだりして過ごしております。これも当時とあまり変わっていません。エヌゲージも近年、カトー、トミックスの他、リアルラインやマイクロエースが参入してラインナップも増えているようです。たまの明けや、年休を使って遠出をしたところではありますが、交番やシフトの関係から思うにまかせないのが現状です。

最後になりましたが、私の現在の仕事は車両や駅の整備にたずさわっています。それでは皆様、お体に気をつけてお過ごし下さい。

(株東武ビルマネジメント 勤務)



今年で十七年目

第三十七回生 井口 悟



交通短大を卒業して今年の三月で十七年がたちます。私は平成二年二月一日に念願の地元の京成電鉄株式会社運輸部に入社して、最初の仕事は、今はなくなりましたが、京成船橋・高砂・押上の三箇所踏切で、運転間隔が多く、自動では扱いができず、人が機械のかわりにする踏切警手という仕事を五年間しました。踏切詰所内で列車接近表示等を見て人が手動で警報機を鳴らして、円形のハンドルをまわしながら遮断機をおろす（ワイヤーをおろす）。無事に列車に支障なく、安全運行、さらに踏切道を通行する人たちを安全に行させる。万が一、係員がまちがえてあげないように鎖錠装置もあり、これを解除にしようとする、以前、他社の踏切警手がおこした事故につながっています。我が社も現在は、手動から自動踏切になり、私は現在、駅務員として日暮里駅に勤務しております。日暮里駅で

は現在平成二十二年を目途に成田新高速鉄道の開業に向けて、駅改良工事を行っています。近々、日暮里舎人線の開業もあり、日暮里駅は大きくかわろうとしています。

いままでは、日暮里駅に勤務しながら毎日が勉強であり、仕事になれるのが一杯でしたが、今後の私の目標は、仕事としてではなく、趣味も兼ねて日暮里の街の散策をして、駅員さんが作ったオリジナルガイドマップをつくっていきたい。理由は、はずかしながら、お客様に日暮里の街のことを聞かれてもわからないという知識不足、本屋さんに行けば多数のガイドマップはありますが、自分で行き体験してみても、名物名所を知っていきい機会だと思えます。将来の夢は接客が好きなので駅に残りお客様に喜ばれ愛される駅員になるのが夢です。そのためには旅行、休みを利用して他社の鉄道・バス・ホテル・レジャー関連の接客接遇サービスのよい面をみて、自分にとり入れたいです。最後に皆様、身体を大切にしてください。

(京成電鉄株 勤務)

① 人の一生は 重荷を負って
遠き道を行くが如し

(②へ続く↓)

ブログ三昧

第三十七回生 進士 恭一

昨年の五月より、個人趣味でブログを開設した。

事の発端は、職場の同僚が開設したホームページがきっかけで、「自分もやってみたいな」と思ったのだが、いざホームページの作成マニュアルを読んでもみると、難しいことばかり。とても作成出来ないとの足を踏んでいた。「それなら、ブログで試してみれば？」という同僚の勧めにより、始めてみた。

ブログを始めるにあたって、何をどのようにしてスタートさせてよいのか理解できず、とりあえず自分の趣味を簡単に紹介して、同じ趣味を持つ人達とパソコンを通して交流しようという狙いで始めてみた。始めはそれこそ見よう見まねであったが、一ヶ月もするとコツを掴み始め、新コーナーを次々と開設させて、画像も添付し徐々にブログらしい形になってきた。基本的にはメインの日記については毎日更新で、その他のコーナー(書庫)については時折更新というのが現状である。一番多く更新しているのは好物である

ラーメンの食べ歩き記録で、次はやはり鉄道ネタかと。鉄道ネタも旅行記、方向幕ネタ、さらには延長線上のバスネタも含めるとかなりの更新数になる。

二〇〇七年一月末現在で、七、〇〇〇人強の訪問者数（もちろん、同一人物が何回も訪問してるケースもあるが）で関心度は比較的高いように思えるが、それに対してコメント数やトラフィックバックの数が極端に少なく、訪問してはみたけど、面白くないからとすぐに退出してしまう傾向が強いようである。従って、記事をもっと面白おかしく記述することが今後の課題でしょう。

今年からは短大時代を振り返り、笑いあり、涙あり、悲しき恋物語ありと懐かしき八〇年代後半の悪しき青春時代を蘇らせるコーナーを開設しようかと企画中である。もし実際に開設したら、同じ時期を歩んだ同期生は勿論のこと、先輩や後輩にも訪問していただき、「こんな時代があったんだ」ということを感慨深く読んでいただけたら幸いである。

興味のある方は左記までアクセスをお願いいたします。

<http://blogs.yahoo.co.jp/mohane5812001>
Club SKRAM — もはねの 小部屋 —

（東京都内の郵便局に勤務）

近況報告

第四十三回生 野中 義博



東京交通短期大学卒業生の皆様こんにちは。第四十三回卒業生、「のなつち」こと野中義博でございます。

数年前に茨城県の筑波サーキットで、また昨年には同じく県内の鹿島鉄道石岡駅ホームで松岡先生に偶然お会いした際に、「ぜひ同窓生にも近況報告を！」とおっしゃっていただいたので、今回、寄稿させていただきます。

卒業してから早いもので一〇年が過ぎました。私は卒業後から、現在も変わらず、地元土浦市の写真館でお客様の各種記念撮影やスクールアルバム制作などの仕事をしています。初めの頃は、接客からアシスタント、また現像からプリント作業まで無我夢中で覚えてきました。お客様にとつて思い出に残る大切な写真を撮らせていただけることを喜びに、毎日が緊張感の連続の中、頑張っています。納期の遅れや要望に答えられなかった撮影など失敗もしました。職場の先輩から「打つ手は無限

勇気を持って行動！」と励まされ、二十四歳で初個展「ENDLESS」、二十五歳を過ぎてから業界主催によるコンテストの入選作に選ばれるようになりました。そして、もつと撮影技術や基礎を身につけたいと、二十七歳から仕事しながら都内の写真学校へ通い、目標にしていた写真技能士の検定に合格することができました。これからは、更にレベルの高い技能検定に挑戦したいと思います。

プライベートでは、運動不足とお酒の飲み過ぎによる不摂生がたり、体重が増えてしまったので、一発奮起してスノーボード・テニススクールで汗を流しています。また、ソーシャルネットワーキングサイト「ミクシイ」で、友人同士のネットワークをたどり、交流を深めているところです。最後になりますが、この場を借りて一言、「第四十三回卒業生の皆さん、そろそろ再会しませんかあ!!!」

（株）仲澤写真館 勤務



お客様との出会い

第四十四回生 高橋 稔



短大を卒業して、早くも一〇年が過ぎようとしています。現在は、私は首都圏内に七十店舗を展開しているカメラ販売店で正社員として勤務しています。短大入学当時、鉄道会社就職を夢見て上京した私が、販売の仕事に就くことになるとは想像もしていませんでした。

販売を生涯の仕事にしたい。そう考えるようになったのは、卒業一年目、アルバイトとして勤務していた頃の、あるお客様との出会いでした。

当社には実践的な接客マニュアルはなく、セールストークや展開方法は個人の判断に任せられており、個性を發揮して接客することが出来ます。ある日、コンパクトカメラをお探しの四〇代半ば程の女性のお客様が来店しました。私はいつものように、使用目的を聞き出し、ベストと思える一台を選び出しました。お客様もその一台に興味を持たれてい

る。あとは押しの一手段です。しかし、接客は予想外に長引きました。

お客様は、「このボタンは？この機能は？」と、そのカメラの全ての機能を聞いてきたのです。その後、比較に他のカメラの機能説明も求められ、結局三〇分以上かけて、やっと一台を売りました。お客様が帰られた後、時間がかかり過ぎた事に店長から厳しく注意されたのを覚えています。二度と会いたくない！その時の正直な感想でした。しかし、二週間程して、「私の事覚えてます？」と女性がいらっしゃいました。私自身、全く覚えていなかったのですが、お話を聞きながら、三〇分かけて接客したお客様だと気付きました。そして、「丁寧に説明してくれましたおかげで、こんなにきれいな写真が撮れたのよ。」と、嬉しそうに海外旅行の写真を見せてくれたのです。お客様の笑顔で、二週間前の嫌な思いも全て消えていきました。

お客様の喜びが自分の喜びになる。接客業ならではの醍醐味です。また、それを励みに出来る私にとって、販売業は天職と感じています。これからも出会いを大切にしながら、お客様と接していきま

(株式会社コイデカメラ 勤務)

人事異動

第四十五回生 小西 主税



平成一〇年三月に東京交通短期大学を卒業してから早九年在都庁として勤務。都庁人生もいよいよ

二桁に迫る。出勤前に鏡に向かう度、間もなく三十路になる自分の姿がどうも頼りない。顔にシワが出来ていた。笑顔だよ、と自分に言い聞かせる。月日が経つのは早いもので、幼稚な性格のまま肉体は中年。時間は一瞬たりとも待たず、くれな

思い起こせば入都当時は同期の若い男女らと一緒に「俺たちが都庁を変えるんだ！」なんて陽気にはしゃいでいた。希望に満ち溢れていた。なお、私が初配属した水道局は低廉かつ安全でおいしい水という研ぎ澄ました商品をつくり、一滴ずつ真心込めてお客様の蛇口までお届けするのが至上命題である。その為、徒弟制度が未だ色濃く残る職場でもある。私は技術屋とはいえない一般行政系職員である以上、行政に携わる機会がない訳

ではないが、水道局が初配属の技術系職員はプロパーとして定年まで局内で活躍する事が多く、私も例外ではないと考えていた。初志などどこ吹く風。自分が行政マンである事を忘れた。ついこないだ入都したばかりのつもりで、これまでカレンダーを何枚めくっただろう、時間はあつという間に過ぎ去った。

そして平成十八年二月末、総務局総合防災部への異動が内示された。総合防災部は自然災害、大規模事故、NBC事案、テロリズム、戦争等のあらゆる危機に対し、警視庁・東京消防庁・防衛省・海上保安庁と協同対処するため常時警戒態勢にある最前線である。いっどこから襲いかかってくるかも知れぬ危機から都民を守る為、職員には相当の行政知識と実務能力、そして如何なる困難をも打ち倒す不撓不屈の精神と強健な肉体が求められる。武者震いした。私はごく基礎的な行政知識しか覚えていなかったが、命を受けたからには必ず期待に応える義務がある。必死で猛勉強と肉体の再鍛錬に努めたのは言うまでもない。

備えあれば憂いなし。常に備えていれば非常事態に直面しても割合対処出来る。備えもせず慌てた時は後の祭りである事が多い。年月もあつという間に過ぎ

てしまう。今からでも遅くはないので、とことん勉強してとことん遊び、身体作りに励んでおくことを後輩の皆様にお願ひしたい。この備えが非常に役立ったと実感する時が必ずやって来る。

(東京都総務局総合防災部 勤務)

学生だった頃

第四十六回生 川上 勇



同窓会会員の皆様
こんにちは。今回の寄稿に当たり、皆様に読んでいただけける程の文才も無く、恥ずかしい限りなのですが、最後までお付き合い下されば幸いです。

卒業から早いもので一〇年の歳月が経ち、今では一児の父親です。毎日子育て、仕事に忙しいですが、学生だったあの頃も暇もなく忙しかった思い出があります。

鉄道員になりたかった私は、それまで勤めていた会社を辞め、東交大に進学したものですから、進学に反対の親から援

助など無く、アルバイトをしなければ食べていけない貧乏学生だったんです。今思い返すと大変だったなと思います。朝は五時位からバイトして講義は九時頃まで、それから川口のアパートまで一時間、寝る時間が無いから、いつもぼくとしていました。それでもやって行けたのはやはり、講義が面白い事、目標に向かって頑張れた事、そして素晴らしい友に出逢えた事だと思えます。私自身もよく周りから個人的と言われるのですが、思い返すと東交大の学生は個性派揃いでしたね、みんな鉄道を目指しているだけあって、筋金入りの鉄っちゃんに本当にマニアックな連中だったと思います。

東交大と並んで私に深い印象を刻んでいるのが「東京」そのものです。地方の私には全てがカルチャーショックで、剣山みたいに突き出たビル群、三分毎に来る電車、ぎゅうぎゅう詰めの埼京線、何もかもが初めてで、子供の様に、わくわくと緊張がないまぜだった気がします。今でも趣味のカメラを持ってビル剣山を撮影しに行くんですよ。

まとまりの無い雑文にお付き合い下さいましてありがとうございます。最後に、あの頃憧れていた職業には就けなかったけれど、本当に得る物が多かった二

年間でした、友達のみんな今はもう何処で何をしているか分からないけど、会える機会があれば、思い出話を肴に一杯やりたいですね。

(株)かましん 勤務)

現在の自分

第四十九回生 高木 健一



月日が経つのも早いもので卒業して五年、今も短大同期の友人と会ったりメールをしたりしている。今は鉄道よりも自動車の方の趣味が楽しく、よく友人とイベントやツーリングに出かけている。短大時代を振り返ると、いろんなことを授業やプライベートで学ぶことができて良かったと感じている。特に山本講師から学んだ鉄道工学は、現在の仕事にとっても役立っており大変感謝している。

平成十四年に東日本旅客鉄道(株)に入社し、私は卒業生としては珍しい車両メンテナンスを行うことになった。当社を

受けるほとんどのの方が私を含め、営業職を希望して試験に臨んでいる。しかし私の場合、幸か不幸か高校時代に取得した資格が面接官の目に入り、検修(メンテナンス)社員として採用したいと言われる現在に至っている。

私は入社後、中央・総武緩行線と地下鉄東西線乗り入れ車両を受け持つ三鷹電車区に配属され、車両の定期検査や修繕を担当している。定期検査とは自動車と言う車検のようなものであり、三ヶ月に一回の月保全と一年に一回の年保全を行っている。また修繕では走行中や検査で発見された故障を修理することや、制輪子等の消耗品の交換を行っている。床下作業では鉄粉や油にまみれ、屋根上作業では夏場五〇度を超える気温の中作業をするなど過酷で体力のいる職場と言える。

検修職場では基本動作が非常に大切であり、守らないと感電や墜落、触車など生命に関わる事故やケガに直接つながってしまう。なかでも私が一番驚いたことは、車両の接近がほとんど分からないため触車の危険が高いことである。入社前は「あんなにうるさい車両の接近が分からないものか？」と考えていたが現実は違った。構内では二十五キロ以下で走

行するうえ、現在の車両は車体が軽く、MGはSIVにVVVFもGTOからIGBTへと替わり、車両自体も静かになってきているためほとんど騒音が出ないのである。さらに雪の日には雪が音を吸収してしまうため、本当に車両の接近が分かりにくいのである。また、当区では車両と車両との間隔が狭いため、裾しぼりをしてE231系などの車両は特に注意が必要である。そのため、作業時の安全確保はもちろん、構内の移動なども意識を持って基本動作を行い注意しなければならない。

営業職とは違いお客さまと接する機会の少ない職場ではあるが、多くのお客さまの命をお預かりする車両のメンテナンスに、これからも私は責任と誇りを持って安全で快適な車両の提供ができるよう一層の磨きを掛けていく所存である。

最後に皆様の御健康と御多幸を祈念して終わりの言葉とさせて頂きます。

(東日本旅客鉄道(株)八王子支社

三鷹電車区 勤務)

② いそぐべからず
不自由を 常と思へば
不足なし

(③へ続く)

車掌の仕事

第四十九回生 小野 浩司



私は、平成十四年に交通短大を卒業後、一年間就職活動を行い翌十五年四月に京急ステーションサービス

ス(株)(以降 SS)の契約社員となりました。駅業務や売店業務も経験し、入社して一年のちようど今頃、助役より「乗務員もやらないか?」と言われ、車掌登用試験の学科は国語、数学、社会とクレペリンを受け合格し、SSの契約社員から京急の正社員へなりました。配属は新町乗務区で、京急本線・空港・逗子・久里浜・大師線の担当をしています。

車掌の仕事は、ドア操作の他、車内放送と空調管理があります。特に空調は、春と秋、季節の変わり目、ラッシュ時は気を使います。また、異常発生(輸送障害や他社線不通など)の放送は、マニュアルがないので旅行中や出勤時は気にして、実際の現場で使用したこともあります。三年前には台風の影響で日ノ出町付近の土砂崩落が発生。先日は品川駅

構内で回送電車が脱線しました。事故がいつ発生するかわからず、そのためにも車掌としてお客さまにわかりやすい案内や手段を日々研究しています。ご納得いただけない場合もありますが、お客さまより「ありがとう」とお声を頂いたときには研究成果があったなど実感すると共に「やりがいのある仕事」だったと思います。現在私は運転士登用試験に向けて毎日勉強をして、努力を無駄にはしないよう頑張ります。

(京浜急行電鉄 新町乗務区 勤務)



私の足跡 ↳ 甥の成長を通して

第五〇回生 堀口 博紀



私は今、「うつ病」を患っている。現在ではこの病名は一般に知られるようになってきたが、まだまだ定

着には至っていない。

だが、甥の存在が、病気に立ち向かう力となり、私の今までの人生の歩みを振り返る機会を与えてくれた。

初めて甥に対面した時は生まれて間もない頃で、抱き方やあやし方が全く分からずに、当惑するばかりだった。

だが、会う回数を重ねていくと、笑顔が増えていき、言葉も覚えて、色々な人との会話や遊びができるようになった。その時私は、ふと思った。今でこそ大人の私だが、生まれた頃や、幼かった頃は、今の甥のような成長過程を経て育って来たのだという事を。甥に出会うまではそんな事は全く考えもしなかったが、育児の大変さや、子供の成長能力のすごさを改めて知った。それはまるで、両親や

私たちが歩く足跡を、甥が辿って来ている様な感覚だった。

そして、私の病気も、甥の存在によって大きく変わった。これまでは、一刻も早く治そうと躍起になっていたが、甥の成長に付き合っ歩いていくうちに、マイペースでいいのだという事に気付いた。甥は知らず知らずの内に、私に教えてくれたのかもしれない。

最近の甥は、自分の父親（私の兄）の仕事の影響もあってか、電車が大好きである。我が家の庭から線路が見えるので、電車が通ると夢中になって見ている。電車の種類も沢山知っていて、ひよつとしたら私を超えているかもしれない。「蛙の子は蛙」とは、よく言ったものである。最後に、私の「うつ病」がいつ完治するかまだ分からないけれど、いつか完治したら交通業界にもう一度挑戦してみたいと思う。そして、一生懸命に生きる姿を、甥に見せたい。

（病気療養中）

③ ころに望おこらば
困窮したる時を 思い出すべし
堪忍は 無事長久の基
いかりは 敵とおもへ
勝つことばかり知りて
負くることを知らざれば

（④へ続く↓）

趣味は映画

第五十二回生

松本 康義



短大は午後から始まるので、午前中を有意義に使いたくて悩んでいた。そんな時、新聞を眺めていたら、

細かく、映画のタイトル・上映開始時間・上映場所が記されていた。映画なら暇つぶしにちょうど良いと思いついたのが、映画鑑賞イコール趣味に結びつけたきっかけとなった。朝は映画館も空いているし、料金も若干安くなるという、学生にしてみれば有り難い。最初は軽い気持ちで、有楽町にある映画館に入り、「ロボコン（ロボットコンテストの略）」を鑑賞した。どんどんスクリーンに目が釘付けとなり、終了時は、体がリラックしたような感動を覚えた。それから私は、「世界の中心で愛を叫ぶ」、「スウィング・ガールズ」など、邦画を中心に二〇本近く鑑賞した。

現在も映画鑑賞は続けている。鉄道業に従事しているので、泊まり明けがある。その明けを使って、映画館に通っている。

上映場所が高崎のみの時も、列車に揺られながら、足を運んで観に行った事もある。

私は映画鑑賞に没頭する為、一人で行く事が多い。友達と行く時もあるが、自分の世界に入ってしまう。リラックスしながら、違う世界を味わえるのが、映画の良い所なのかも知れない。

映画を趣味にする人は限られてくる。ふとしたきっかけで、映画を趣味にしてもらった新聞と短大に感謝したい。これからも、邦画を中心に楽しみたいと思っている。

（財）東京都交通局協力会 勤務）

検修業務に就いて

第五十三回生

池田 甫



私が交通短大を卒業し、JR貨物に就職してから、まもなく一年が経とうとしています。入社式の直後から新入社員研修が始まり、新潟県五日町での集合研修や各現場での実務研修な

どを経て、昨年六月一日付けで隅田川貨車区に配属となりました。

隅田川貨車区は、東京の北の貨物ターミナルである隅田川駅構内にあり、貨車の交番検査、修繕、仕業検査、コンテナ列車のブレーキ試験、後部標識取扱い等を行っていきます。私は現在、車両係として、交番検査（交検）を主に行っています。取り扱う車両はコキ一〇〇系やコキ五〇〇〇形といったコンテナ貨車が大半で、普段は目にする事の少ない大物車や車掌車も扱っています。コンテナ貨車は、九〇日を越えない期間ごとに交検に入ってきますが、貨車の状態は千差万別で、全般検査上りの車から大幅な修繕が必要な車まで様々です。また、遠方から来る貨車が入区することも珍しくなく、札幌や福岡で交検を受けた車両が入ってきた時は、JR貨物の営業エリアの広さを改めて実感することがあります。

配属されてまず学んだことは、安全作業についてでした。特に検修職場では労働災害が多く発生しており、私も見習い中は、ハンマー作業等による生傷が絶えませんでした。加えて、暖房も冷房もない検修庫内での作業は、入社前の予想をはるかに超える過酷なものでした。しか

し、検査が終わった車両がディーゼル機関車に牽かれて出区していくのを見ると、何とも言えない達成感が湧いてきます。

貨物列車は、旅客会社の線路を借りて運転しているのです。本線上で車両故障が発生すると、当該列車だけではなく、旅客列車にも大きな影響を及ぼしてしまいます。そのため「常に安全で確実な輸送を行えるよう、車両故障を発生させない」というのが車両検修の持つ大きな役割であり、また、当たり前にこなさなくてはならないことでもあります。検修の仕事は長年の経験を必要とする場面が多く、一人でこなせる業務はまだほんの一握りにすぎません。交検の仕事以外でも、ブレーキ試験の手順や仕業検査など、覚えることは山程ありますが、一つずつ確実に仕事を覚え、早く一人前の検修作業員になれるよう、努力していきたいと思えます。

（日本貨物鉄道株式会社 関東支社 隅田川貨車区 勤務）

④ 害その身にいたる
おのれを責めて 人をせめるな
及ばざるは
過ぎたるより まされり
(⑤へ続く↓)

転ばぬ先の杖

第五十六回生 鈴木香菜枝



この前私は、ある保険会社のセミナー及び就職試験を受けた。残念ながらその企業に御縁はなかったが、セミナーは思ったよりためになり、これからの生活にプラスになる情報だったのでそのことについて少し紹介したいと思う。

セミナーのテーマは『生涯設計』。若いうちは漠然としか考えないが、一〇年後、二〇年後となると将来に備えていると具体的に考えなくてはならない。自分の将来のこともあるし、その前に親の介護という問題も出てくる。現在の日本の高齢者が人口のどのくらいを占めているかは昨今の情報で既に知っての通りだと思うが、実際には今後の自分にどのような影響を与えるのか本当のところはあまり詳しくわからないのが本音だろう。

兄弟がおらず、一人息子や一人娘が多い「少子社会」では結婚した後自分の両親と相手方の両親の四人を看護しなくてはならなくなるのである。特に女性の場合、日

本ではやはり介護は女性が主体となつてやらなくてはならないという考え方があつたために、親に介護が必要になつた場合、真つ先に女性が介護をすることになる。つまり働くなら親が元氣なうちに働くしかない状況にあるのである。

また、日本は世界一の長寿国であるが、しかしそれはあくまで平均寿命の話であつて、イコール一人で人の世話にならず生活できる年齢（健康寿命）というわけではない。平均寿命と健康でいられて介護を必要としない年齢の差は、二〇〇二年の段階で男性は六・五歳、女性で八・九歳であり、仮に健康寿命が来て要介護になつた場合はそのままの年数介護し、されるのである。老後の資金の問題もある。夫婦の生活費が毎月二十五万円と仮定した場合、年間で三〇〇万円、五年間では一、五〇〇万円の生活費が必要となつてくる。毎月五万円を貯蓄したとしてもためるのに、二十五年もの月日がかかるのである。年金もあるが、ゆとりある生活を求めるなら自分でためていた方が現実的である。

セミナーで戴いた資料の一頁目に次のようなことが書いてあつた。

『将来に備えて「働いて備える」「貯えて備える」↓自助努力、自己責任が必要になります！』

在校生特別寄稿

受け継いだバトン

前田 満憲



会長という役職を引き継ぎ、これからの学生会執行部を引っ張っていくことになりました。やりたい事もある中、うまく務まるかという期待と不安が入り混じっています。

来年度の学生会執行部を運営していくに当たり、私達六人の執行部員で次のような活動目標を定めました。「率先垂範」これには自ら進んで模範を垂れるという意味があります。学生会の活動は、私達執行部員が率先して行動することで成り立ちます。特に東交祭や交通見学会といった行事では、その要素を多く含んでいます。私達がまず動き、周りを巻き込むことで行事を円滑に運営することができると考えています。さらに、一人一人が責任を持って行動することを

サブテーマとし、積極的に動くことを心がけるようにしています。

又今年の学生会では、今までの流れの中で少しでも私達らしい新たなものを作りたいたいと思っています。入学式での新入生オリエンテーションや、配布するパンフレットに一工夫加えるということ。その一つです。学校紹介だけではなく、普段の生活や周辺の案内等を盛り込んで内容を充実させていく予定です。部活等の団体と協力して私達しかできないものにするべく、検討を重ねている所です。その他の学校行事においても、何らかの形で私達らしい取り組みをしていきたいです。

これからの一年間、先輩方から受け継いだ学生会というバトンを手に、活動していきます。まだまだ力不足な面もあり、充分な活動ではないかも知れませんが、しかし、仲間と力を合わせれば、それは形になるはず。そして、その中で私達らしい流れを作りつつ、先輩方に負けなような学生会にしていきます。私達が受け継いだバトンを後輩に渡せるように努力していきたいと思えます。

(一年次在学中)

⑤ 慶長八年一月十五日

家康公遺訓

東交祭実行委員会の 役務を終えて

和田 武正

私が知っている限り、「実行委員会の候補がいなければ、学生会の副会長がやる。」と言われていたので、今年度の学生会副会長を私が勤めさせてください。そのため、必然的に実行委員長の仕事もやらせていただきました。

今年度の丸ノ内線の開放イベントでは、オリジナルのきつぷを作ったり、現在現役で活躍している丸ノ内線の車内の走行音を録ってイベント当日に音を流す。といったことを過去の資料から、自分の頭からとアイデアを出して東交祭の準備を頑張りました。

当日は、各部、ゼミとも自分たちそれぞれの催し物で賑わいました。

丸ノ内線の方では、去年の来校者と同じ数のきつぷ作りでしたが、二日分がわずか一日で終わってしまったほどの数でした。車内では、中にある資料を見ている人、席に座って過去を振り返る人、走行音を聞いている人等、さまざまでしたが、見学者からは笑顔があふれていて、

私は実行委員をやってよかったと思えました。

当初はあまり東交祭の資料がなく、皆で考えを出しあって決め、そして無事に東交祭が成功した。

中途半端ですが最後に、実行委員長をやらせていただきありがとうございます。

(二年次在学中)

充実した学生生活

水野 広理



入学して二年間というのは早いもので、もう残すところ行事が卒業式のみとなりました。入学した当時は、今後立ちはだかる就職活動を含む数々の難関に不安でいっぱいだった事を思い出します。

交通短期大学の学生生活は私にとって、今まで経験してきた学校生活の中で最も充実し、また多くの経験をしました。それは何かと聞かれれば、やはり就職

活動です。辛い事や悲しい事もありましたが、多くの先生方をはじめ、今まで出会ってきた企業の方々から学んだ事により自分は少しずつではありますが、成長した気がします。

しかし、思い出は就職活動だけではありません。それは学生生活です。共に学び、そして行事活動においても皆が一丸となって積極的に取り組んでくれたお陰で、スムーズに進行する事ができ、皆様には大変お世話になりました。

卒業まで後わずかとなりました。残りの学生生活は思い出に残る有意義なものにしたいと思えます。

(二年次在学中)



東京交通短期大学 「有志ボランティア」の紹介

武田 裕一



「有志ボランティア」は、お金を寄付する以外にも出来るボランティア活動があることを学生や教職員に紹介すること、無料ビーズアクセサリー教室を開催することの二つを目的として、昨年秋学内に設立された団体です。メンバーが二人しかいないため、クラブとしての届出は出せず、現在のところ有志団体として活動しています。主な活動内容としては、使用済み切手、メー

タースタンプ等の収集で、二人で協力して掲示物の作成や回収箱の管理などを行っています。集めた物は有志ボランティアが日本キリスト教海外医療協力会、財団法人ジョイセフ、特定非営利活動法人シヤプラニール、福島県矢祭町の各団体に送付することになっています。これらはいずれも信用と実績のある団体であり、送った物はそれぞれの活動内容に沿って正しく使われます。また、有志ボラ

ンティアのもう一つの目的である無料ビーズアクセサリー教室の開催については、二月中旬を予定しており、学生が手芸に興味を持ち今後の人生に役立つようにわかりやすく教えるつもりです。活動を開始して約二ヶ月で一〇〇枚を超える使用済みカードが集まるなど、予想外の結果に嬉しい限りです。

しかし、現在一年次の学生が所属していないため、二〇〇七年度以降の存続が極めて難しい状況です。私たちとしては、せっかく軌道に乗りかけた有志ボランティアの活動をここで終わらせたくはありません。そこでお願いがあります。在学生のみなさんと、私たちの意志を引き継ぎ、ボランティア活動をしてみたいという人はぜひ入会して下さい。また、卒業生のみなさんと当団体の趣旨に賛同し、協力したいという気持ちのある方は後記に記した情報を参照の上、各団体へ送付して頂きますようお願いいたします。あるいは、何かの用事で短大にいらっしゃる際に使用済み切手等をお持ち頂ければ、私たち有志ボランティアがお預かりし責任を持って各団体に送付いたします。お問い合わせは、短大事務局までお願いいたします。みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。

【各団体の活動内容、送付先住所一覧】

・財団法人ジョイセフ

皆様から寄せられた使用済みカードやメータースタンプ、ベルマークなどは、再生自転車を途上国の草の根保健ボランティアに贈ろう運動、途上国の生活改善支援などの資金となります。（日本のメータースタンプと外国のメータースタンプは、必ず区別して別々の箱または袋に入れて送付して下さい。）

電話〇三（三二六八）五八七五

〒一六二一〇八四三

東京都新宿区市谷田町一―一〇

保健会館新館六階

書き損じはがきに関して

↓「ジョイセフ・書き損じはがき係」

使用済みプリペイドカードに関して

↓「ジョイセフ・使用済みカード係」

学用品に関して

↓「ジョイセフ・学用品係」

その他に関して

↓「ジョイセフ・国際協力推進グループ」

・特定非営利活動法人シヤプラニール
皆様から寄せられた古本やCDなどは、バン格拉デシュとネパールの現地プロジェクト全般の活動資金になります。（内容物・数を可能な範囲で記入して送付して下さい。）

〒一六九一八六一一
 東京都新宿区西早稲田二―三一―一
 早稲田奉仕園内
 シャプラニール「ステナイ生活」
 電話〇三―三二〇二―七八六三
 ・社団法人日本キリスト教海外医療協力
 会（JOC S）
 JOC Sは、現在、バングラデシュ、カ
 ンボジア、ウガンダの三ヶ国に医師、保
 健師、看護師を派遣し、その地域の人々
 の健康を守るために活動している団体
 です。みなさまから寄せられた切手は、
 収集家のご協力により換金され、上記の
 活動の資金となります。
 （日本切手と外国切手に分けて送付し
 て下さい。）
 〒一六九一〇〇五一
 東京都新宿区西早稲田
 二―三一―一八―二三
 社団法人 日本キリスト教海外医療
 協力会
 電話〇三―三二〇八―二四一八
 なお、受領書不要の方はその旨をご明記
 下さい。（JOC Sとシャプラニールの
 み）
 ジョイセフには、五〇〇g以上集めてか
 ら送付して下さい。
 ・福島県矢祭町



皆様が読んだ本を今度は矢祭町の中・高
 校生が読みつないでいきます。「元気な
 子どもの声がかきこえる町」矢祭町のまち
 づくりの目標ですが、赤ちゃんからお年
 よりまで図書館に集える日を待ち望ん
 でいます。（本は、冊数を記入して送付
 して下さい。）
 〒九六三―五一―一九
 福島県東白川郡矢祭町小田川字
 春田一六一―一
 矢祭町山村開発センター
 電話〇二四七―四六―二〇九七
 （二年次在学中）

会 計 報 告 書

(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

平成 18 年 4 月 1 日

東京交通短期大学 同窓会

収入の部			支出の部		
項目	金額(円)	適用	項目	金額(円)	適用
繰越金	325,829		集会費	56,068	東交祭・幹事懇親会
会費	465,000	5,000 円 × 93 名	事務費	0	
臨時会費	30,000	東交祭・幹事懇親 会	通信費	368,835	会報 30 号印刷発送代, 東交祭案 内等郵便代等
雑収入	11	利息	渉外費	59,732	会長賞記念品, 卒業祝賀会
			会議費	0	
			雑費	0	
			繰越金	336,205	
収入計	820,840		支出計	820,840	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

平成 18 年 4 月 1 日 会計監査 堀 丈夫Ⓜ, 村越 輝夫Ⓜ

ご冥福をお祈りいたします

昨年は同窓会にとって関係の深い方々の訃報が続きました。

新年度早々の十八年四月には、関根恒郎名誉教授が八十八歳でご逝去されました。先生は東京大学法学部をご卒業し、運輸省、経済企画庁、運輸経済研究センターなど豊富な経験を経て、東京交通短期大学の非常勤講師として教壇に立ち、多くの学生がお世話になりました。本学の「交通論叢」では交通や鉄道に係わる多くの発表をされており、「交通史試論集」等を出版しております。教壇でも、「交通史」「自動車交通論」「現代政治論」をご担当され、その姿や話し方が思い出されます。

暮れになり、年賀状を用意している頃、以前短大事務局をご担当されていた福王宣子さんが、十八年十一月にご逝去されたとの「喪中はがき」をご家族から頂きました。福王さんは短大創設間もない昭和三〇年頃から事務局をご担当され、在校生から大変慕われていた様子を同窓生からよく拝聴しました。つい数年前まで事務局にいたように思われます。短大記念行事などでお会いした際の変わ

らぬ優しい笑顔が思い出されます。

今年になり、年賀状整理をしてお年玉はがきの当選発表が出る頃に、第三回卒業生の北原忠良さんが十二月二十八日に急逝された旨のはがきが、奥様から「寒中見舞いと年賀欠礼挨拶」として届きました。北原さんは同窓会設立当初から同窓会の運営に協力いただき、会計・監査、副会長などご苦労いただきました。一〇年程前に体調が十分でないとのことで副会長を退かれておりました。北原さんは国鉄東京車掌区で社員指導を担当され、当時から英語堪能な鉄道マニアでした。毎年、切符の絵が入った年賀状を楽しみにしていたのですが、北原さんの短大在学中に福王さんが事務局担当として勤務を始め、学生たちのアイドル的存在だったと北原さんからよく聞いておりました。

お世話になった三人のご逝去の報に接し心からご冥福をお祈りいたします。

【訂正とお詫び】

第三〇号三ページ松岡弘樹先生の役職は学長補佐ではなく副学長の誤りでした。お詫び申し上げますと共に訂正いたします。

編集後記

▼昨年は訃報の多い年でした。プライベートルドでも父の死、そして友の死。父の死は予想出来た死でしたが、友の死は全く予想だにしない出来事でした。田舎へ帰るたびに会っていた奴で、ひょうきんさの中にも一本筋の通った物を持つていました。ビツクリと同時に非常にショックを受け、いまだに信じられない心持ちです。まだ小学生の子供と奥さんを残して自らの命を絶つとは、よほど辛く、苦しいことがあったのでしょうか。けれど、死ななくても良いではないか……。こんな言葉を思い出しました。「自分が生きているのではない、生かされているのである」 (編集長N)

▼今シーズンの冬は暖冬で、暖かく雪が少ないのは良いのだが、これから春・夏と暖かくなるにつれ、大雨・台風などが頻発するのではと心配になる。さて、今号にも沢山の原稿をお寄せいただきました。投稿していただいた皆様におかれましてはお忙しい中でお書きいただきましてありがとうございます。まだ投稿したことがない方も次号での投稿をお待ちしております。 (副編集長H)